

市民インタビュー集計表

(人)

実施日	実施時間	対象者の所属	対象者の階層										合計		
			～20		20代		30代～40代		50代～60代		60～				
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性			
H26.04.07	20:30～21:00	勤労青少年ホーム幹事会			5	4									9
H26.04.10	14:00～14:30	タビックス会津支店					3	2							5
H26.04.11	15:30～15:45	老連河東地区協議会										45	5		50
H26.04.21	13:30～15:30	TI会津工場						11	9						20
H26.04.22	14:30～15:00	羅羅屋				2	3	2							7
H26.04.25	16:00～16:15	ラズベリーの会										18			18
H26.05.07	14:20～14:50	鶴城地区婦人消防隊												5	5
H26.05.08	13:30～14:00	河東地区母の会												11	11
H26.05.13	12:30～13:00	あしすと料理教室								2	16				18
H26.05.14	9:30～10:00	女性を愉しむ会												5	5
H26.05.20	17:00～17:30	富士通セミコンダクターテクノロジー								2	8				10
H26.05.21	14:00～14:30	協和燃料㈱			2							1	1	1	5
H26.05.29	13:30～14:00	会津オリンパス				1	1			2	2				6
H26.05.29	16:00～16:30	会津短期大学			4	2									6
H26.06.11	14:00～14:30	JAあいづ							1		5				6
H26.06.30	10:00～10:30	フジソフト (地域給付金コールセンター)								12					12
H26.07.11	22:00～24:00	飲食店従業員				2				3		2			7
H26.07.14	19:00～19:20	謹教スポーツクラブ										25			25
H26.09.09	13:00～13:30	若松商業高校生		2											2
H26.09.11	19:00～19:20	まちづくり応援隊								4	1				5
H26.09.19	11:00～11:30	西花畑町内会								2	12				14
H26.10.15	11:00～11:30	会津工業高校	2												2
H26.12.18	19:00～19:30	きらめき女性塾									3				3
H26.12.25	11:00～11:30	昭和電工			2		2			1					5
H26.12.25	13:30～14:00	男女共同参画推進活動ネットワーク									8			8	16
H27.01.09	10:15～10:40	コミュニティ結								5					5
H27.01.13	10:15～10:40	コミュニティ結								5					5
H27.01.20	10:00～10:30	中央保育所					13								13
H27.01.28	9:45～10:00	中央保育所					11								11
H27.02.24	随時	会津西病院		4											4
合計		30	2	6	13	38	19	37	13	101	46	35			310

インタビュー内容まとめ

① 市のごみ問題に対する認識について

●主な意見

- ・分別には気をつけているが、ごみの減量化についてはほとんど意識していない。
- ・会津若松市の分別やごみ出しのルールはわかりやすい。
- ・指定ごみ袋がないのはいい。
- ・ごみのことでホームページは見ない。

※少数意見・アイディア

- ・他の自治体では分別の数が少ないところがある。なぜ分別するのか知りたい。
- ・幼稚園や学校からのお便りは親も目を通すので、学校等を通じた情報発信も効果的ではないか。
- ・普段買い物をするお店などにごみに関する情報があると関心を持つのではないか。
- ・分別や減量化をやるかどうかは、職場環境、家庭環境に影響を受けるのではないか。
- ・認知症の高齢者や障がい者など福祉の視点からもごみを出しやすい環境の整備（制度、住民の理解）が必要ではないか。
- ・ごみ出しのマナー（散らからないように出す、清掃する）等は若い方にも実践して欲しい
- ・世代間の意識の共有化が分別やごみ減量の実践につながるのではないか。
- ・夜勤があると、ごみ出しができず、家にたまってしまう（特に隔週収集の資源物等）。収集時間や排出時間など配慮して欲しい。

② ごみの増加要因について

●主な意見

- ・ごみが増加しているという印象はない
- ・震災の影響はあまり感じていない
- ・品物が安く手に入るの、長く使うより、買い換えてしまう傾向にある（買い替えのサイクルが早くなっている）
- ・包装が多く、プラごみが増えている印象を受ける。
- ・チラシが増えてきている（景気回復？）
- ・家庭菜園の野菜やもらい物の野菜を余らせたことがある
- ・賞味期限、消費期限切れの食材を出してしまうことがある。

※少数意見

- ・子供が生まれた。
- ・震災時、壊れた食器などを廃棄した。
- ・震災以降は親や自分の身辺整理（衣服など）をしている。
- ・特に親の介護が始まり、家を空けるようになると、整理が必要となる。
- ・退職を期に身辺整理（断舍利）をはじめた。友人にも片づけを始めた者がいる。
- ・孫、介護用のおむつが増えた。
- ・消費増税の駆け込みで、ミルクやおむつなどを購入した。
- ・今は行っていないが、片付けなければならない品物はたくさんある。きっかけがあればごみとして出すだろう。
- ・掃除の際に雑巾代わりに「クイックル」や「コロコロ」を使うようになった。
- ・家庭菜園などで栽培する野菜は、売っている物より廃棄分（外葉、根など）が多い。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

●主な意見

- ・生ごみの水切りはある程度実践している
- ・レジ袋や過剰包装の辞退を実践している
- ・リサイクルを徹底する事が減量化に繋がると思うので分別を頑張っている。
- ・子どもの服、くつなどは知り合いから譲ってもらっている。
- ・食べ残しは極力しないようにしている。
- ・家族（親）が実践していたら自分もやると思う。

※少数意見・アイディア

- ・生ごみの水切りはあまり気にしていない。
- ・生ごみをコンポストや畑で堆肥化している
- ・衣類の処分にはリサイクルショップを活用している。
- ・バザー・フリマに参加している
- ・売れるもの（鉄くずなど）は業者へ売却しており、市の収集には出していない。
- ・野菜は皮や芯なども調理する、魚は身を丁寧に食べる、残り物をリメイクするなど、食べきるようにしている
- ・収集日に出せないことが多いので、かんやびん類はそもそも買わないようにしている。
- ・高くても（比較的容器包装が少ない）真空パックなどの食材を選んでいる。
- ・生ごみの堆肥化をしていたが、臭いが出たり、肥料の活用先がないためやめてしまった。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

●主な意見

- ・生ごみの水切り徹底は実践できる。
- ・ついつい不要な食品を買ってしまい、食べきれずに捨ててしまうことがあるため、こうした行為を改める。
- ・過剰包装が嫌いなので、ノントレー販売など、容器包装が少ない販売が増えるとうれしい。
- ・野菜くずの仕分け、乾燥に挑戦してみたいが、手間がかかるのであれば、今まで同様三角コーナーを使うと思う。
- ・価格が安いなら、量り売り商品を買ってみたい。（買ったことはない。）
- ・ごみ出しのマナーを守る（分別、ごみSTの管理など）

※少数意見・アイディア

- ・コンポストはると便利だが、虫や臭いが発生するため近所や同居人（子、孫）から嫌がられる。普及は困難。
- ・賞味期限と消費期限の正しい認識を普及することが必要。
- ・古着は顔の見える人の物でないと利用しづらい。
- ・料理や節約など家事に役立つと協力しやすい。
- ・工場などでは古着をウエスとして活用できる。そうした事業者とのマッチングによりリユースが進むのではないかな。
- ・スキーウェアや制服など子供の服は成長とともにすぐに着られなくなってしまう。そうした品物の交換会のようなイベントがあると親は助かるのではないかな。
- ・リユース品を有効活用したい。（市民間でのシェア、国際支援など）
- ・有料化したり、収集頻度を減らすと減量に取り組むのではないかな。
- ・有料化は反対。不法投棄や野焼きが増えるだろう。市民の意識を高めることが先だ。

⑤ リサイクルの取り組みについて

●主な意見

- ・「雑がみ」を知っていて、分別している人は半数程度
- ・プラスチック製容器包装の分別はしているが、きれいにするために水や洗剤使いすぎるとは、節水や水質汚染の防止などを考えると抵抗がある。どの程度洗浄すればよいのか。
- ・分別で迷うことがある（おもちゃ、歯ブラシ、電池、スプレー缶など）ため細かい分別方法が知りたい。
- ・買い物するときや、帰るときなどに、店頭回収をよく利用している。

※少数意見・アイデア

- ・「雑がみ」の存在を数年前に知った。知らない人も多だろうから、もっと周知が必要ではないか。
- ・町内の集会などで説明会や座談会をしたらどうか。分別の方法が聞けるのはありがたい。
- ・ゴミ分別アプリは「あったら使うかも」程度
- ・HPや市政だよりは見ないので、テレビCMなどで広報すると意識が高まるのではないか
- ・町内会の活動としては、集団回収の実施だけでいっぱい。これ以上の取り組み拡大は難しい。
- ・リサイクルされたものがどうなるのか、結果報告があるとうれしい。
- ・アパートなどは入居後のゴミカレンダーの配布など、アフターフォローがない場合がある。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.04.07	20:30~21:00	長谷川、福地、青島、小山	勤労青少年ホーム幹事会	20~30	5	4

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・分別には気をつけているが、ごみの減量化についてはほとんど意識していない。
- ・会津若松市の分別やごみ出しのルールはわかりやすい。
- ・指定ごみ袋がないのはいい。
- ・普段買い物をするお店などにごみに関する情報があると関心を持つのではないか。
- ・ごみのことでホームページは見ない。きっかけが必要。(チラシ→詳しくはHPを!のような...)
- ・分別や減量化をするかどうかは、職場環境、家庭環境に影響を受けるのではないか。
- ・幼稚園や学校からのお便りは親も目を通すので、学校等を通じた情報発信も効果的ではないか。

② ごみの増加要因について

- ・震災の影響はあまり感じていない
- ・品物が安く手に入るので、長く使うより、買い換えてしまう傾向にある(買い替えのサイクルが早くなっている)
- ・生ごみの水切りはあまり気にしていない。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみを畑で堆肥化している。冬季間は無理だが... (河東町)
- ・衣類の処分にはリサイクルショップを活用している。
- ・フリマに参加している(年4回程度)
- ・チャリティーバザーを行っている。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・スキーウェアや制服など子供の服は成長とともにすぐに着られなくなってしまう。交換会のようなイベントがあると親は助かるのではないか。
- ・工場などでは古着をウエスとして活用できる。そうした事業者とのマッチングによりリユースが進むのではないか。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・雑がみやブラをきちんと分別している。
- ・雑がみやブラは「燃やせるごみ」として出してしまっている
- ・ティッシュの箱のブラを取り外している
- ・ティッシュの箱のブラは取り外していない
- ・トレイやブラの汚れをどの程度落とせばいいのかわからない
- ・ブラのリサイクルのために水や洗剤使いすぎるとは、節水や水質汚染の防止などを考えると抵抗がある。他の環境保全の取組みとの関係性やバランスがどうなっているのか知りたい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H28.04.10	14:00~14:30	青島	タビックス会津支店	20~30	2	3

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみの分別方法は意識しているが、「ごみ」に対しては意識した事はない。
- ・普段利用している「ごみステーション」はいつも清潔なので問題があると感じた事はない。
- ・ごみが増えたとは感じられない。不景気なのにごみの量が増えている事に驚いた。
- ・市のホームページを見る機会はあまりない。情報は人の集まる場所へ掲示するなど工夫が必要

② ごみの増加要因について

- ・最近、コンビニ弁当が美味しくなったので、自炊してた人も弁当に切り替わってきたのでは？
- ・友人と飲む際に、節約の為に自宅で飲むようになった。後片付けをすると結構な量のごみが出る。
- ・掃除の際に雑巾代わりに「クイックル」や「コロコロ」を使うようになった。
- ・コンビニでの小袋は無駄だけど、商品を入れられてしまうと断りにくい。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・特に行っていない
- ・リサイクルを徹底する事が減量化に繋がると思うので分別を頑張っている。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・洋服などをリサイクルできる環境があれば利用したい。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・子供会などの廃品回収に協力している。
- ・市のごみカレンダーを見ながら細かく分別している。
- ・不要な物をインターネットオークションに出品している。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.04.11	15:30~15:45	長谷川、福地、遠藤、小山	老連河東地区協議会	60~	45	5

① 市のごみ問題に対する認識について
・ごみが増えているという認識はない。
② ごみの増加要因について
・生活の中で、ごみが増えている実感はない。
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを畑で堆肥化している ・コンポストや電動式生ごみ処理機を使っている。 ・生ごみの水切りもきちんと実践している（地区に数名はそうでない住人もいるが...） ・売れるもの（鉄くずなど）は業者へ売却しており、市の収集には出していない。
④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて
※現状でも生ごみの自家処理、資源物の分別等の取組みが浸透、徹底されており、「これ以上」という取組みが思いあたらない様子だった。
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・「雑がみ」や「プラスチック制容器包装」もきちんと分別している。 ・新聞紙とチラシの分別をしている。 ・お菓子の箱やティッシュの箱も分別している。 ・町内会や学校の集団回収に協力しており、市の収集はあまり利用していない。 ・分別には厳しく、分別されていないごみは自主的に本人に返している。 ・分別を徹底させるため、ごみ袋に名前を書いている（堂島、八田野）

所見:河東は地域的な特性(農家が多い)や合併前からの文化、人間関係により、独特のローカルルールが形成されている印象
旧市内とひとくくりにはできないのかもしれない。(それはそれで面白いが...)

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.04.21	13:30~15:30	福地、小山	テキサスインストルメンツ会津工場	30~40	11	9

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・会社でごみ分別チェックをしているせい、家でも分別にうるさくなっている気がする。
- ・子どもが生まれたり、震災があったことから、将来の世代に物を残したいと考えるようになった。それ以降はリサイクルショップを利用したり、古着の交換をするようになった。

② ごみの増加要因について

- ・最近子どもが生まれ、おむつのごみが増えている。気がつくとも3袋くらいになっている...
- ・買い物時のトレイなど、容器包装が増えている印象を受ける。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・排水溝の生ごみは、ごみの日の前日に軽く絞ってシンクにおいて置き、極力水を抜いている。
- ・流し台の近くに野菜くず用のごみ箱を用意しておき、ぬれないようにしている。
→臭いも出ず、三角コーナーを洗う手間も省けて楽である。
- ・食べ残しは極力しないようにしている。
- ・お茶の葉をしぼってから捨てている。
- ・スイカの皮を漬物にして食べている。
- ・土嚢袋を利用して生ごみを堆肥にしている（ダンボールコンポストを利用したこともある。）

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・子どもと一緒につい不要な食品を買ってしまい、食べきれずに捨ててしまうことがある。改めたい。
- ・子ども服などは2、3回しか袖を通さずに着られなくなってしまうことがある。知り合いへ譲ったりもしているが、交換できる場所、施設などがあるのもいいかもしれない。
- ・過剰包装が嫌いなので、ノントレー販売など、容器包装が少ない販売が増えとうれしい。
- ・野菜くずの仕分けに挑戦してみたいが、手間がかかるのであれば、今まで同様三角コーナーを使うと思う。
- ・幼稚園や学校経由でお知らせが来ると情報がいきわたるのではないかな。
- ・有料化してはどうか。
- ・収集頻度を減らすと減量に取り組むのではないかな。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・雑がみのリサイクルをしている人はあまり見かけない。
- ・雑がみのリサイクル方法はどこに書いてあるのか。
- ・容器包装プラスチックの汚れはどの程度とればいいのかわからない。水の使用量や水質汚染とのバランスをとるには、どこで線引きすることがよいのか、示してほしい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.04.22	14:30~15:00	佐藤（一）、小山	羅羅屋	30~40	3	4

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増えているということについてはじめて知った。

② ごみの増加要因について

- ・あまり増えている実感はない。
- ・子どもが生まれてから、ペットボトルが増えた（ミルクにミネラルウォーターを使うため）
- ・クイックルワイパーのような使い捨て掃除用具を使用している。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみはしぼってから、新聞紙に包んで出している。
- ・三角コーナーは溜め込まず、その都度空にしている。
- ・料理教室では三角コーナーを使わず、野菜くずを紙で作ったごみ箱にまとめていた。
- ・実家に畑があるため、生ごみを畑に捨てている。
- ・コンポストを使っていたこともあるが、虫がわいてしまい、臭いも気になるため、やめてしまった。
- ・子どもの古着をぞうきんにして使っている。
- ・家庭菜園をしている友人や実家からのもらい物の野菜は食べきれずに捨ててしまうことが多い。
- ・つい先日、冷凍食品を食べずに廃棄してしまった...
- ・紙パックはごみになるので、掃除機は紙パック不要の物を使用している。
- ・新婚当初は、食材の量がわからず、よく余らせていた。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切りは実践できそう。
- ・価格が安いなら、量り売りの焼酎などを買いたい。（買ったことはない。）
- ・トレイはかさばるので不要。ノントレー販売でもかまわない。（購入後、お店で廃棄している方も...）

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・買い物するときや、帰るときなどに、店頭回収をよく利用している。
- ・空き缶を利用して、小さいプラ（アメなど）を入れている。
- ・ごみ箱をたくさん用意して、種類ごとに廃棄できるようにしている。そのままごみ出しができるので楽。（L字型に配置して、省スペース化の工夫もしている。）
- ・市の収集以外で資源物を出せる場所が増えると助かる。
- ・雑がみの分別はしていない（分別できることを初めて知った。）
- ・雑がみは、子どもがイタズラしないよう、燃やせるごみのごみ箱にすぐに捨ててしまっていた。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.04.25	16:00~16:15	長峰、小山	ラズベリーの会	40~60		18

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみの増加については、家庭での実感はない。

② ごみの増加要因について

- ・買い物をする時、3割はプラごみ。プラごみが増えているのではないかと。
- ・家庭菜園などで栽培する野菜は、売っている物より廃棄分（外葉、根など）が多い。できるだけ堆肥にしているがどうしても廃棄する場合がある。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・畑で堆肥化している。
- ・コンポストを使っていたが、うまく堆肥にできない。結局はごみに出してしまっている。
- ・野菜くずがぬれないよう、三角コーナーではなく、新聞紙などに包んで出している。
- ・水切りはできるだけ行っているが、どうしても水分が出てきてしまう。
- ・ごみ袋の底に新聞紙を敷いて、水を吸うようにして出している。
- ・生ごみはカラスのえさにしている。
- ・堆肥化は農家の人はできるが、一般家庭では難しいだろう。
- ・ごみS Tに分別のチラシを貼って町内の人に周知している。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・水切りは協力できる。
- ・今後もこうした意見交換の場が必要。会員みんなで聞くべきだった。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・「雑がみ」はきちんと分別している。
- ・購入時のトレイなどは必要ない。ノントレー販売のほうがありがたい。
- ・プラの汚れはどの程度取ればよいのか。分別のために水や洗剤をたくさん使うのは気が引ける。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.07	14:20～14:50	長谷川、小山	鶴城地区婦人消防隊	60～		5

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・若い人（30～40代）の人のマナーがよくない。仕事や子育てで時間がないこともあるのだから...

② ごみの増加要因について

- ・高齢化で身辺整理などを始めた人もいるのではないか（くつ、洋服など）
- ・何でも使い捨てる時代になっているのを感じる。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみは水きりネットを絞ってしっかり水を切っている。
- ・野菜くずなどは、チラシを使って水分を切っている。
- ・分別は徹底して行っている（雑がみなども）
- ・ごみ出しはマナーを守ることも大切。
- ・世代間の意識の共有化が分別やごみ減量の実践につながるのではないか。
- ・過剰包装は辞退している。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・フリーマーケットなどには欲しいものが無いことが多い。
- ・新品ならまだしも、人が着た物を欲しがるとはあまりないのではないか。
- ・コンポストなどは敷地の広い家でしか使えない。
- ・ノントレー販売は難しいのではないか（消費者が賛同しない。見た目が悪いなど）
- ・レジ袋の有料化はもっと力を入れるべきだ。
- ・「野菜の皮まで食べる」などは量が多いとそれなりの料理になるが、2人暮らしでは大した料理が出来ない。
- ・衛生的な抵抗感もあり、どうしても廃棄してしまっている。
- ・家具や子供用自転車などは、リユースの需要があるのではないか。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・なっとうなど、水がもったいないので洗っていない。
- ・牛乳パックは店頭回収を利用している。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.08	13:30～14:00	長谷川、小山	河東地区母の会	60～		11

① 市のごみ問題に対する認識について

② ごみの増加要因について

- ・震災によるごみの増加の影響はない。（蔵を持っていた人は解体に伴って若干整理はしたかもしれないが．．．）
- ・買い物時のパックや包装紙が多い印象を受ける。
- ・チラシが増えてきている（景気回復？）
- ・生ごみの堆肥化をしている人は減っているのではないか。（臭い、害虫の問題）

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみは水をしばってから出している。
- ・生ごみ用のビニール袋を用意し、そこへ廃棄している。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・コンポストはあると便利だが、虫や臭いが発生するため近所や同居人（子、孫）から嫌がられる。普及は困難。
- ・子の世代に賞味期限の正しい認識（まだ食べられる）ことを普及することが必要。
- ・ノントレー販売は陳列の際の見栄えの問題もあり、導入は困難ではないか（実際は買わない）。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・雑がみ（お菓子の箱など）もきちんと分別している。
- ・プラスチック製容器包装もきちんと分別している。
- ・若い世代（30～40代）は分別の意識が低い印象を受ける。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.13	12:30~13:00	長谷川、小山	あしすと料理教室	40~60	2	16

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増加している実感はない。

② ごみの増加要因について

- ・震災の影響は感じない。
- ・加齢により、身辺整理や遺品整理をしている人は見受けられる。
- ・引越しをしたので、片づけをした。
- ・衣替えなど、時期によって片付け・整理を行うことはあるが、特に量や回数が増えたということではない。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・水切りネットでしぼるなど、生ごみの水切りは実践している。
- ・三角コーナーを使わず、野菜くずなどは別のごみ袋に入れ、ぬらさないようにしている。
- ・分別は達成感があるためきちんと実践している。
- ・綿の肌着などは古くなるとぞうきんにして利用している。
- ・古くなったタオルをぞうきんとして利用している。
- ・古くなった靴下を紙パックにつめて、油を吸わせて出している。
- ・子供服などは親戚におさがりとして譲っている。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・手間がかかるような取組みはあまり浸透しないのではないか。
- ・ごみSTを見ると、水切りをしていない家庭も見受けられる。水切りの周知徹底は必要だろう。
- ・古着のぞうきんへのリメイクなどは、糸くずが散らかることなどを考えるとやりたいとは思わない。
- ・他自治体（山形？）では、「雑がみ」排出用の紙袋を配布している。
- ・油の処理は大変なので、廃食用油を出す場所が増えて欲しい。
- ・肉などは、脂身の量や大きさなど、見た目で選びたいので、トレイは必要だ。
- ・結局はひとりひとりの意識の問題である。
- ・全員ではないだろうが、市が呼びかければ協力する人は増えるのではないか。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・「雑がみ」について、以前は市から広報もあり分別していたが、最近は広報が無いためやめてしまった。
- ・古紙については、「新聞」「雑誌」「ダンボール」くらいしか認識されていないのではないか。
- ※「雑がみ」の分別については、実践している（知っている）人としていない人（知らない人）が半々の割合だった。
- ・プラスチック製容器包装は軽く洗って汚れが落ちるものは分別しているが、汚れがひどいものは「燃やせるごみ」にしている。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.14	9:30~10:00	長谷川、小山	女性を愉しむ会	60~		5

① 市のごみ問題に対する認識について

ごみが増加しているという認識はない。

② ごみの増加要因について

- ・退職を期に身辺整理（断舍利）をはじめた。友人にも片づけを始めた者がいる。
- ・孫、介護用のおむつが増えた。
- ・消費税の駆け込みで、ミルクやおむつなどを購入した。
- ・包装が多く、プラごみが増えている印象を受ける。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・食材は、包装が少ない直売所（JAなど）を利用するようにしている。
- ・肉などは、お店でトレイを処分し、そのまま冷凍できるよう、別の袋に小分けにして持ち帰っている。
- ・新聞紙の上で野菜を切り、野菜くずはそれに包んで廃棄している。（「ぬらさない」の実践）
- ・なるべく皮はむかず、食べられる部分は食べるようにしている。
- ・賞味期限を過ぎても廃棄せず食べている。
- ・トレイなどは店頭回収を利用している。
- ・生ごみはできるだけ水をしぼって出している。
- ・生ごみはごみの日の朝まで置いて、水をきってから出している。
- ・生ごみを畑で肥料にしている。
- ・コンポストを使うようになってから、ネズミやモグラが出て困った。それが原因で使用を取りやめた。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・賞味期限や皮を食べる、などは個人の考えがあるため、全員が実践することは難しいだろう・
- ・分別の基準だけでなく、より具体的な事例を広報してもらえると悩みが少なくてよい。
- ・50音辞典を配布して欲しい。
- ・施設見学の際に子どもたちにより具体的な分別の啓発をすべき。
- ・年に数回分別のチラシを配布するなど、より目に付くような啓発が必要。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・雑がみの分別は実践している人としていない人で分かれた（半々）
- ・プラスチック製容器包装の分別基準（どの程度洗うのかなど）に疑問がある。
- ・若い人は分別をしていない印象を受ける。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.21	17:00～17:30	内川、小山	富士通セミコンダクターテクノロジ	40～60	2	8

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増えている実感はない
- ・ハッピーマンデーで資源物（特にプラ）の収集が少なく、置き場も無いため「燃やせるごみ」に出していた。
- ・可能ならば有料化はしない方がよい。

② ごみの増加要因について

- ・特にごみの出し方に変化はない。
- ・家庭菜園の野菜やもらい物の野菜を余らせた経験はある（大半の人がうなづいた。）

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切りはしている（しっかりしぼっているわけではない．．．）
- ・野菜くずはぬらさないようにしている。
- ・生ごみは一晚置いてから出している。（水か切れている印象を受ける。）
- ・生ごみはしぼっても、気がつくとごみ袋に水がたまっている。
- ・雑草などはアスファルトの上に置いておくと乾燥が早まる。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・ごみ処理施設見学など、ごみの処理過程がわかれば分別なども迷わなくなるかもしれない。
- ・生ごみの水切りも程度による。しぼるにしても、時間や気分（生ごみに触れるので）もあるので積極的にはできない。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・「雑がみ」の分別は大半の人が実施している。
- ・プラスチック製容器包装の分別の基準（洗う程度など）で迷うことが多い。
- ・分別で迷うことがある（おもちゃ、歯ブラシ、電池、スプレー缶など）ため細かい分別方法が知りたい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.21	14:00~14:30	小山	協和燃料(株)	40~60	3	2

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみの増加は実感している

② ごみの増加要因について

- ・震災時、壊れた食器などを廃棄した。
- ・震災以降は親や自分の身辺整理（衣服など）をしている。
- ・特に親の介護が始まり、家を空けるようになると、整理が必要となる。
- ・仕事の顧客の中でも、家の整理をしている家庭は多い。
- ・もらい物の野菜や果物は腐らせてしまい、もったいないと思うことが多い。
- ・若い世代（20~40）はすぐに捨てる習慣の人が多いのではないか（20代社員も同意）。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切りはきちんとしぼっている。（それでもしぼりきれないが．．．）
- ・不要になったものは、できるだけリサイクルショップに持っていつている。
- ・古着などは一部ウエスとして業務で活用している。

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・リユース品を有効活用したい。（市民間でのシェア、国際支援など）

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・「雑がみ」の分別は実施している。
- ・「プラスチック製容器包装」の分別も行っている。（弁当などは洗剤で洗っている。）
- ・トレイの店頭回収なども行っている。
- ・分別や店頭回収に協力することで何かメリットがあるとうれしい（ポイント還元、寄付など）
- ・細かい分別（歯ブラシ、おもちゃなど）では迷うことがある。もっと細かい分別の手引きがあるとありがたい。
- ・仙台よりはごみのルールはゆるい。
- ・リサイクルされたものがどうなるのか、結果報告があるとうれしい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.29	13:30~14:00	佐藤、小山	会津オリンパス	40~60	3	3

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増加している実感はない。
- ・ごみ問題だけではないが、もっと透明性が必要（取組みが伝わらない、見えない）
- ・会津は都会（東京、千葉）と比べると散乱ごみが少なく、きれいである。
- ・ごみの分別などは家庭でもひとり（母親、祖母、父親）に偏りがち。家族全体で取り組めないか。

② ごみの増加要因について

- ・片づけをしている人は多いのではないかと（特に高齢者層）。
- ・これまでは「もったいない」と大切に取っておいたが実際は使っていない物が多い。大掃除など思い立った際には一気に捨てている。
- ・子供服など、日用品が安いので、汚れたり壊れたりしたらすぐ買い換えてしまう。
- ・もらい物の野菜などは食べきれずに廃棄することが多い。
- ・買いすぎなどで、賞味期限切れの食品を廃棄してしまうことがたまにある。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切り（しっかり絞っている。）。
- ・野菜くずなどは濡らさないように別に処理している。
- ・親と同居しているのでごみの分別は厳しく言われる。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・水切りや生ごみ処理の工夫（濡らさない）などは実践できそう。
- ・ごみのためにHPを見たり調べたりはしないので、目に付くところ（ごみST等）に分別や減量化の掲示があると効果があるだろう。
- ・手元に分別の手引書があると便利だし、分別に協力的になるだろう。
- ・古着などを通じて国際支援が出来ないのか（したい）。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・「雑がみ」の分別（実践度合いは半々）は行っている。
- ・家庭ではごみ分別の担当が決まっている。
- ・リサイクルの流れ（どんな風に生まれ変わるのか）がわかると意識も高まるのではないかと。
- ・学校の授業で子供たちに分別方法を教えるべきだ。
- ・ごみ処理の費用やリサイクルのメリット・デメリットを丁寧に議論すべき。
- ・10年後成人を迎える層に丁寧に教育することが長期的に効果があるのではないかと。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.05.29	16:00~16:30	長谷川、小山	会津短期大学	20~30	4	2

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・あまり意識したことがない。
- ・ごみ問題が身近な課題であるという意識、関心がない。
- ・なぜ分別や減量が必要なのかわからない。自分たちへの影響がわからない。
- ・レジ袋削減などは、実効性がないとする議論もあり、懐疑的だ。

② ごみの増加要因について

- ・ひとり暮らしでは、むしろごみが減った。
- ・ひとり暮らしになって、弁当やお菓子を食べるが増えた。
- ・牛乳や野菜などは食べきれずに捨ててしまうことがある。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水はできるだけきって出している。
- ・リサイクルショップは活用している。(あまりお金にはならない。)
- ・実家暮らしでは、ごみの分別などは親任せになりがち。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・アパートなどは入居後のごみカレンダーの配布など、アフターフォローがない場合がある。
- ・ごみカレンダーアプリなどがあっても利用しないだろう。
- ・学校にカレンダーが置いてあると持っていこう。
- ・学校教育(中学、高校等)でごみ問題が学べ日常の習慣になることが必要ではないか。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・ひとり暮らしでは、びん、かんは出にくい。
- ・「雑がみ」は「燃やせるごみ」に出してしまっていた。
- ・紙パック飲料は面倒なので「燃やせるごみ」にしてしまっている。(あまり買わなくなった。)
- ・分別の意識はあるが、意味がわからず行っている印象。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.06.11	14:00～14:30	長峰、小山	JAあいづ	40～60		6

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・特にごみが増加していることに対する問題意識はない。

② ごみの増加要因について

- ・プラごみが多い
- ・過剰包装気味である。
- ・消費が増えているのかもしれない。
- ・震災以降、家の片付け、断舍利等を始めた（1名）
- ・冷凍庫で食材が化石化してしまうことがある。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみは畑で堆肥化している（2名）
- ・野菜は皮や芯なども調理する、魚は身を丁寧に食べる、残り物をリメイクするなど、食べきるようにしている（1名）
- ・子どもの服、くつなどは知り合いから譲ってもらっている。
- ・リサイクルショップなどを利用している。
- ・冷凍の際にパックについているラップを利用して賞味期限等がわかるようにしている。→ラップの購入頻度が少なくなった。
- ・生ごみは水切りネットで水を切り、新聞紙にくるんで廃棄している。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・古着は顔の見える人の物でない并利用しづらい。
- ・料理や節約など家事に役立つと協力しやすい。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・靴流通センターやユニクロでの靴・衣類の回収に協力している。国際支援等につながるとやりがいがある。
※集めた物がどうなっているのかは気になる・・・
- ・びんの洗う程度など分別の細かい部分で迷う。気軽に聞ける機会がない。
- ・海外（カナダ）では、家庭に生ごみ処理機が設置されている。また、節水意識も高い（日本では浸透しないだろうが。）
→海外のライフスタイルを知ること、意識を変えるきっかけになる??

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.06.30	10:00~10:30	長谷川、小山	フジソフト	30~40		12

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・特にごみが増加していることに対する問題意識はない。

② ごみの増加要因について

- ・今は行っていないが、片付けなければならない品物はたくさんある。きっかけがあればごみとして出すだろう。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみは一晚置いてから出したり、新聞紙に包んだり水切りをして出している。
- ・冷蔵庫は詰め込みすぎないように気をつけている。
- ・賞味期限、消費期限切れの食材を出してしまうことがある。
- ・食材は冷凍してなるべく長期保存できるよう工夫している。
- ・電動式生ごみ処理機を利用したことがあるが、1回の処理量が少ないこと、臭いが出ることからやめてしまった。
- ・もらい物の野菜を食べきれずに捨ててしまうことがある（特に葉物）。
- ・パンがごみになりやすい。
- ・子供服を知り合いにゆずっている。
- ・友人と国際支援に衣類等を寄付した（仙台の団体らしい...）

④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて

- ・生ごみの水をしぼるのには抵抗がある。一晚置く程度で充分。
- ・コスト削減など具体的なメリットがあれば協力できる。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・プラをどの程度洗えばよいか詳しく知りたい。
- ・リサイクルのルートやその後どのような製品になっているのかわからない。
- ・ごみSTが遠いので出すのがおっくうになって、たまってしまう。
- ・分別の種類が多いとごみ箱の数が多くなり場所をとる。
- ・家族の協力がないと徹底した分別は不可能。
- ・お店や会社の休憩室などにごみの出し方などがあると目に入りやすいかも。
- ・ネットよりも電話のほうが早い。
- ・関東と比べると会津の分別はアバウトである。
- ・他の自治体では分別の数が少ないところがある。なぜ分別するのか知りたい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.07.11	22:00~23:00	佐藤、小山	飲食店従業員	30~40		7

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・特にごみが増加していることに対する問題意識はない。

② ごみの増加要因について

- ・震災時も大きな影響はなかった。
- ・ごみが増えている実感はない
- ・子どもが果物が好きなので、生ごみは重い

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切りは実践している
- ・衣類（仕事の衣装）などは譲り合っている
- ・通販（ミネラルウォーター）のダンボールは運送業者に返している
- ・収集日に出せないことが多いので、かんやびん類はそもそも買わないようにしている。高くても真空パックなどの食材を選んでいる。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・雑がみの分別に取り組みたい
- ・家（アパート）にスペースが無いので、なるべくごみを出さない生活を心がけていく

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・雑がみは「燃やせるごみ」に出してしまっていた。
- ・実家暮らしなので、分別は家族（両親、祖父母等）が行っている。自分のごみ出しをするだけ（20代）
- ・ひとり暮らしで、ごみの量も少なく、トラブルになるのも嫌なので、テナントビルの事業系ごみ置き場に出している（30~40代）※分別は事業系ごみの分別（可燃、不燃、かん、びん、ペット）に分けている。
- ・「燃やせるごみ」は夜中に出すことがあるが、まれにカラスにつつかれてしまい悩ましい。
- ・昼の仕事もしているので、通常どおりごみ出しすることができる（30~40代）
- ・子どもの通学の見送りや家事があるため、通常どおりごみ出しをしている（30~40代、実家暮らし）

【所見】

20~30代の独身女性は実家暮らしが多く、家事一般は親や祖父母が担っていることが多い。※自身はごみ出しを実践するなど役割分担をしている。

40代~の独身女性は、職場（ビル）のごみ置き場に出していることが多い。収集時間に出せないため、周辺住民に配慮している。

独身女性（シングルマザー）は、実家暮らしが多い。また、昼の仕事や子どもの送迎を行うことから、睡眠時間を削り、通常のごみ出し時間に家事を行っている。

※実家暮らしではない夜勤型シングルマザーの方は相当無理をした生活をしているのでは？この層はごみ出しが困難になるかと思われる

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.07.14	19:00~19:20	青島、小山	謹教スポーツクラブ	40~60		25

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増加している認識はない。

② ごみの増加要因について

- ・家族が増えた（子供の帰省）ため
- ・震災の影響はなかった

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切りを実践している
- ・しっかり水切りしている（ぎゅっとしぼっている）方は半数以上いた

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの水切りや分別排出を継続していく
- ・メモ用紙や封筒など、小さな「雑がみ」もできる限り分別していく
- ・できれば有料化はして欲しくない（経済的な負担増となるため）

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・「雑がみ」の分別を行っている（7割程度の方）
- ・プラスチック製容器包装もきちんと分別している
- ・飴玉の袋など小さな物もできる限り分別している

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.09.09	13:00~13:30	小山	若松商業高校生	~20		2

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増加している認識はない。
- ・そもそもごみ問題に関心がない。

② ごみの増加要因について

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・CD、DVD、漫画等はリサイクルショップを利用することがある。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・なぜやらなければいけないのか、何が問題なのかがわかれば協力する気持ちが出てくるかもしれない。
- ・学校を通じて情報が流れてくれば意識が高まる生徒もいるだろう。
- ・携帯電話、ネットは見るが、市のHPは見たことがない。アプリなども利用しないだろう。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・家で、ごみ箱が分かれているため、分別は行っている。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.09.11	19:00~19:20	小山	まちづくり応援隊	40~60	4	1

① 市のごみ問題に対する認識について

- ・ごみが増加している認識はない。
- ・若い世代のごみ出しマナーが悪い。コンビニに捨てたり、他のごみSTに出す人がいる。地域で管理しているのだ、という意識付けが必要ではないか。

② ごみの増加要因について

- ・震災後、家の片付けをするようになった気がする。(衣類、家具などを処分している。)
- ・生活が贅沢になり、野菜の葉を食べなくなったり、衣類を頻繁に買い換えたりするようになった。
- ・避難者の方がよくお弁当やお惣菜を買っているのを見かける。惣菜や弁当の容器は汚れが落ちにくいので、「燃やせるごみ」になってしまうのではないか。

③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて

- ・生ごみの堆肥化をしていたが、肥料の活用先がないためやめてしまった。

④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて

- ・なぜやらなければいけないのか、何が問題なのかがわかれば協力する気持ちが出てくるかもしれない。
- ・学校を通じて情報が流れてくれば意識が高まる生徒もいるだろう。
- ・携帯電話、ネットは見るが、市のHPは見たことがない。アプリなども利用しないだろう。
- ・有料化は反対。不法投棄や野焼きが増えるだろう。市民の意識を高めることが先だ。

⑤ リサイクルの取り組みについて

- ・プラスチックの洗浄の程度がわからない。
- ・「雑がみ」の存在を数年前に知った。知らない人も多いだろうから、もっと周知が必要ではないか。
- ・町内の集会などで説明会や座談会をしたらどうか。分別の方法が聞けるのはありがたい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26.09.19	11:00~11:30	長谷川、小山	西花畑町内会	40~60	2	12

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ・物があふれすぎているのではないか。 ・認知症の高齢者や障がい者など福祉の視点からもごみを出しやすい環境の整備（制度、住民の理解）が必要ではないか。 ・ごみ出しのマナー（散らからないように出す、清掃する）等は若い方にも実践して欲しい
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、家の片付けをするようになった気がする。（衣類、家具などを処分している。） ・世代交代により、子供世代が、親世代が溜め込んだごみを片付けているのではないか。 ・物置にたくさん未使用の物がしまっているが、今は安く新品を帰るため、貰い手がいない。
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの堆肥化をしていたる。 ・水切りを実践している（夏場は果物が多く、大変） ・衣類やもらい物はバザーなどに提供している。
④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・リユースなどは、インターネットやアプリを通じて売買がすすんできている。 ・いい物があっても、家具など重い物は運ぶのが大変なのであげられない。 ・品物をもらいたい人の情報があればリユースが進むのではないか。
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・集団回収の実施だけでいっぱいいっぱい。町内会としてこれ以上の取り組み拡大は難しい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26. 10. 15	11 : 00～11 : 30	白石、黒澤、小山	会津工業高校	20～30	2	

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみが増えているという認識はない ・家の手伝いでごみ出しをしている
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、家のごみが増えたという実感はない ・家の片付けなどもしていない ※両親は50代
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋の辞退
④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で3Rについて勉強するが、具体的な実践にはつながっていない。 ・親が実践していたら自分もやると思う（分別がそうなので） ・ごみ出しアプリは「あったら使うかも」程度 ・HPや市政だよりは見ないので、テレビCMなどで広報すると意識が高まるのではないか
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・雑がみの分別はしている

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26. 12. 18	19:00～19:30	小山	きらめき女性塾	40～60		3

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に密着した問題だとは思いますが、普段はあまりごみのことを意識して生活していない。 ・環境に配慮した製品では「無添加」など健康に関連がある点は重視するが、ごみになるかどうかは意識していない。
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、家のごみが増えたという実感はない ・震災時、マンションの上の階に住んでいたため、揺れが大きく、食器や家電製品がほとんど壊れてしまった。それ以来、家全体の片づけをしている。 ・衣類や雑貨類が安く手に入るので、つい衝動買いしてしまう。 ・ネットショッピングが増えたので、ダンボールは増えた（買うのは主に化粧品やアクセサリ）
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋の辞退 ・食材の使いきり、食べ切り ・もともと物を置かないようにしている。
④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・衝動買いをやめる ・「やらなければいけない！」と思ってやると楽しめないので、「今日は気分がいいからやってみよう」くらいの気持ちで取り組んでもらうことが重要
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・衣類のリサイクルルートがあるなら利用したい。 ・子育て支援の視点でのリユースには賛成。品物はベビーカーやベビーベッド、チャイルドシート、スキー用品など。※比較的高価で使用頻度が少ない（成長により数年で不要になる）品物が需要があるだろう。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26. 12. 25	11 : 00～11 : 30	福地、小山	昭和電工	40～60		3

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ・有料化については、メリット（ごみ減量化やごみ問題への意識喚起）もあるが、デメリット（経済負担、不法投棄の増加、コンビニ等のごみ箱への投棄増加等）も大きい。 ・できるならば、有料化ではなく、自分たちの取組みでごみ減量化を達成したい。 ・粗大ごみの予約が面倒 ・他自治体にいたときは、分別されていないと置いていっていた。会津はそこまで厳しくないのではないか。
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、家のごみが増えたという実感はない ・衣類や雑貨類が安く手に入るので、つい衝動買いしてしまう。 ・ネットショッピングが増えたので、ダンボールは増えた
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・洋服などはリサイクルショップを利用することがある（1名）
④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしでは、（可処分所得が多いため）高くていい物を買えるが、結婚するとそうもいかない ・取組みをするためには、家族の理解が必要。家族全員で考える、実践するという環境づくりが大切 ・家族で物をシェアすることが必要。街コンなど結婚支援もごみ減量化につながるのでは？
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしでは、どうしても分別が雑になってしまう。また、ごみを置くスペースも少ない。 ・ごみ出しは自分だが、分別は家族（親・配偶者）がしている。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H26. 12. 25	13 : 30～14 : 00	小山	男女共同参画推進活動ネッ	40～60		16

① 市のごみ問題に対する認識について
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、家のごみが増えたという実感はない ・震災の影響は受けなかったが、今後の被害を避けるため、片づけをして一時的に増えた（1名） ・現在はしていないが、これから片づけなければならない物がたくさんある
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
④ 今後実践できるごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストは、堆肥が重いため、歳をとるにつれ、管理が大変になりやめてしまった。 ・コンポストは、冬場は利用できないだけでなく、雪の重さで壊れてしまうため管理が大変。 ・古着のリユース、リサイクルはぜひ協力したい。
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルショップに持って行っても受け取ってくれない古着が多い。 ・古着のリサイクルボックスやNPOでの回収など、リサイクル先があれば利用したい。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H27.01.09	10:15~10:40	塚原・小山	コミュニティ結	30~40		5

① 市のごみ問題に対する認識について
・粗大ごみが出しづらい（家から出せない、スプリングが処理できない等）→市で対応できないのか
② ごみの増加要因について
・震災後、家のごみが増えたという実感はない
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
・生ごみの水切り ・買い物時に、食べ物を買すぎないように注意している ・そもそもあまりごみが出ない
④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて
・コンポストは、あまり興味がない。 ・忙しいため、あまり手間のかかる取組みは実践しづらい ・捨てる物に時間とお金を使うのはもったいない
⑤ リサイクルの取組みについて
・リサイクルショップなどはあまり利用しない ・リユース品などは、出す物はたくさんがあるが、欲しいと思う物はない。

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H27.01.13	10:15~10:40	横山・小山	コミュニティ結	30~40		5

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ・「粗大ごみ」の基準がわかりにくい（重さや材質などをわかりやすく周知すべきではないか。）
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・大熊町から避難している。 ・特に生活の中でごみが増えた実感はないが、引越しの際にはまとまったごみが出る。（借上げ→仮設、会津→他市町村など）
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物時に、食べ物を買すぎないように注意している ・溜め込むスペースが無いので、あまりごみが出ない
④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・大熊町では土地がたくさんあったのでコンポストを利用していたが、現在は敷地が狭く無理。 ・子育て用品はコストに対して使用期間が短いので、兄弟の少ない家庭には需要があるだろう。 ・自分の衣類等はリユース品はあまり魅力を感じない。
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・分別の種類がほとんど同じなので不便は感じない。むしろ有料化ではないのでありがたい <p>※だからといってごみをたくさんだしているわけではない！</p>

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H27.01.20	10:00~10:30	小山	中央保育所	20~30		13

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市政だよりはよく見る（子供に関する情報が載っているため） ・ 回覧板や新聞折込みチラシなど目に付きやすいところに情報があれば気にすると思う。 ・ 座談会形式も効果的だと思う。
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災等の影響はない ・ 子供が増えるとオムツなどのごみが増える
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみの水切り（時間を置いて排出）
④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食材の使いきりは実践できる ・ スキー用品やベビーベッドなどはリユースがすすむのではないかと。 ・ チャイルドシートなどは、帰省したときのみ使うことがあるので、その際にレンタルなどができるとうれしい。
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「雑がみ」の分別をしている人は半分ほど

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H27.01.28	9:45~10:00	小山	中央保育所	20~30		11

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none"> ごみの量については、あまり意識していない
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none"> 震災等の影響はない
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> 生ごみの水切り（時間を置いて排出） 電動式生ごみ処理機を利用している（1名）
④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて
<ul style="list-style-type: none"> 食材の使いきりは実践できる チャイルドシートやスキー用品、ベビーベッドなどの子供用品のリユースはありがたい。
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none"> 「雑がみ」の分別をしている人は2割ほど 50音分別表など細かい分別の手引きがあると便利

インタビュー内容

実施日	実施時間	聴取者	対象者の所属	対象者の年代	人数	
					男性	女性
H27.02.24	随時（アンケート）	小山	会津西病院	20～30		4

① 市のごみ問題に対する認識について
<ul style="list-style-type: none">・ごみの量については、あまり意識していない・ごみの分別については意識しているが、減量化については意識していない。
② ごみの増加要因について
<ul style="list-style-type: none">・子供が生まれたため増えた・断捨離をしている
③ 現在実践しているごみ減量化の取り組みについて
<ul style="list-style-type: none">・減量化にも意識して取り組んでいる
④ 今後実践できるごみ減量化の取組みについて
<ul style="list-style-type: none">・夜勤時にごみ出しができず、ごみがたまってしま（不燃、かん、びん、ペットなど隔週収集のごみ）ので出せるように配慮して欲しい。（収集時間を遅らせる、前日から出せるようにする、など）
⑤ リサイクルの取り組みについて
<ul style="list-style-type: none">・分別については、意識してきちんと取り組んでいる。